

2026年3月18日 大阪観光大学卒業式、別科修了式挨拶

本日は、8つの国・地域（中国、日本、ベトナム、台湾、韓国、ネパール、香港、マレーシア）の大学学部卒業生、アジア5ヶ国（中国、ネパール、ミャンマー、韓国、スリランカ）の大学別科の修了生が新たな人生に旅立ちます。卒業および修了されるみなさん、おめでとうございます。また、本日会場でご参列のご家族など、卒業生、修了生をご支援いただいたみなさんにも敬意とお祝いの気持ちをお伝えしたいと思います。

さて今日卒業する多くの方は、2022年4月1日に入学されました。この日、大阪観光大学は、2019年以来の混乱を克服し、新しい学校法人大阪観光大学としてスタートしたのです。そしてこの日は、私が再生大阪観光大学を経営する学校法人の理事長に就任した日でもありました。その意味では、学部卒業生は、新大阪観光大学最初の卒業生でもあり、私からしますと理事長として受け入れ、4年間をともに過ごし、送り出す最初の卒業生でもあります。

この4年間は、学部卒業生のみなさんでいえば、新たな教育理念、新たなカリキュラムで学び、本学の教育という中身をつくりだした期間であり、大学自体でいえば、消滅の危機を乗り越えただけでなく、今後の持続可能性への希望をもてる財政的基盤を確立した期間でもありました。

これはひとえに本学を学びの場として選択し、学びの実質を体現された学生のみなさんと、十分とは言えない待遇、環境にもめげず教育、研究、学生支援等に携わっていただいた歴任教職員の尽力のたまものであるということです。感謝とともにみなさんの力によって、今日も日本の高等教育の一端が立派な成果をもたらしていることを広く社会のみなさんにお伝えしたいと思います。

私自身が4年間、理事長としての職責を果たしえたとすれば、この4年間、顧問として関与した時期を含めれば、この5年半で出会い、インタビューに応じてくれ、話をきかせてくれた留学生、日本人学生が、理事長として、大学経営者として、何をすべきかを教えてくれたからです。

とくに留学生の日本への認識と希望の語りは、私に日本社会の見直しとアジア的視点において日本の高等教育の価値を発見させてくれるものでした。

別科のみなさんの学びにも理事長として励まされました。図書館で、バスのなかで、さらには歩きながらも日本語のテキストを読む姿は、私に経営者としての責務の大きさを教えてくれました。

いま、日本においては人口急減社会への対応が切実な問題として認識されてきていますが、いま20代のみなさんが見るであろう2100年に向けての時代は、アジアのほとんどの国・地域が同じ事情に直面します。いまヨーロッパで、中東で、

中南米で大国の脅迫と侵略とそれへの応酬・応戦、戦禍にあります。そのなかにあつて、みなさんは、アジアに位置するこの日本でこの4年間、アジア10数ヶ国・地域から構成される多文化のコミュニティのなかで学び、交遊を重ね卒業されます。本学卒業生・修了生には、観光産業、地域振興の担い手としての活躍、そしてアジア全域での平和と希望の創造、多様な人々の共生のための地球環境の保護、共生の社会のシステムの創造への貢献を期待したいと思います。

最後に、現在の日本の高等教育政策のもとにあつては、本学の未来は視界不良ではありますが、学生、教職員、そして本学に期待をよせていただいた各界のみなさんによって築かれた本学の持続可能性を、今後さらに確実なものにしていくことをお誓いします。卒業生、修了生のみなさんは、末永く本学の教育、研究、経営に関心をもつていただき、いろいろな形で応援していただくことをお願いします。

以上お祝いのことばといたします。

2026年3月18日

学校法人大阪観光大学 理事長

山本健慈